

鷺宮高校 社会科フィールドワーク通信 Vol.9(2024. 3 月)

社会科同好会準備編⑥ 第五福竜丸展示館&月島もんじゃ焼き

3月26日(火)、「社会科同好会(仮・申請中)」のうち、1学年生徒6名＋社会科教員1名で、都立第五福竜丸展示館を訪問しました。以前、鷺宮高校に来て講演してくださった学芸員の市田真理さんの解説を聞き、展示を見学しました。アメリカの水爆実験によるビキニ事件から70年、に関する学習の3回目です。とても風と雨の強い日で、新木場駅から夢の島までが遠く感じられました。夢の島には熱帯植物園や陸上競技場、Bumb東京スポーツ文化会館などがあり、海も見え、お天気のいい日に来たら気持ちのいい場所なのですが・・・。

第五福竜丸展示館を東京都が設立した趣旨を、パンフレットから一部抜粋して紹介します。「都立」つながりで、親近感を感じます。無料なので、校外学習や修学旅行で訪問する小中高生も多いそうです)

「この展示館には、木造のマグロ漁船『第五福竜丸』およびその付属品や関係資料を展示しています。『第五福竜丸』は、昭和29年(1954年)3月1日に太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験によって被害を受けました。・・・東京都は、遠洋漁業に出ていた木造漁船を実物によって知っていただくとともに、原水爆による惨事が再び起こらないようにという願いをこめて、この展示館を建設しました。〔東京都 昭和51年(1976年)6月10日開館〕」

以下、参加した生徒の感想を紹介します。(裏面に続きます！)



市田真理さんは、船員・大石又七さんの思いを継承している。

◆第五福竜丸の話は歴史の教科書のコラムのようなものでどのようなもの

なのか少ししか知らなかったのですが、今回、この第五福竜丸について説明を聞くことができて良かったです。原爆として思いつくのは広島と長崎の話ですが、今回を経て第五福竜丸を甚大な被害だったのだと気付きました。船に乗っていたほとんどの人がまだ若い18歳や20歳などで、たったこの船に乗っていた一瞬で一生物の傷を受けてしまったと考えると何とも言えない気持ちです。一番初めに亡くなってしまった方の長女のお手紙が、当事者の家族の気持ちがひしひしと伝わってきて辛い気持ちになりました。

◆神奈川学園との交流のときに聞いた話を第五福竜丸や展示されている資料を見ることで当時の様子を肌で感じる事が出来ました。当時権力の弱かった女性や子どもが活躍したおかげで水爆実験も止めることができたし(←署名運動や原水爆禁止世界大会のスタートは、核実験に対する一定の歯止めになった、と言ってよいでしょうか？これは重いテーマです・・・[顧問])、第五福竜丸を今に残すことが出来たので良かったと思います。もんじゃも美味しかったです。



◆第五福竜丸という普段関わりのない話題でしたが、職員の方の話し方や細かい説明があって、とても分かりやすく面白かったです。また、同年代の人たちが多く参加していたのも印象に残りました。

◆今回の話を聞いて、今まで学んできた第五福竜丸の知識と結びついたり新しく知ったりしたことも多く、まだ知らなかったことがたくさんあるなと感じました。今回の活動では死の灰はどんな感じが第五福竜丸はどのような大きさかなど物を見て理解を深めることができたので良かったです。月島で本場のもんじゃ焼きを美味しく食べることができて良かったです。